

# 佐世保市立学校給食検討委員会

## 第9回 議 事 要 録

- 日 時 平成20年6月5日(木) 午後7時から9時
- 場 所 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室
- 出席委員 武藤委員 七熊委員 三島委員 近藤委員 村田委員 真崎委員 古賀委員  
迎委員 光富委員 馬場委員 森宗委員 重信委員 永元委員 廣山委員
- 欠席委員 水江委員 東委員 田崎委員
- 事務局 古賀教育委員長 徳勝教育委員 浅井教育委員 新谷教育委員  
本山教育次長 池田総務課長  
森山 吉田 酒井 川添 高尾 吉永 諸隈 坂本
- 傍聴者 3人
- 会次第
  - 1 開 会
  - 2 教育長あいさつ
  - 3 委嘱状交付(保護者代表委員の交代にともなうもの)
  - 4 事務局からの確認事項  
第8回検討委員会議事要録の確認について
  - 5 議 事
    - (1) 学習会 ～佐世保市の学校給食実施の現状と課題～
    - (2) 協 議 ～学校給食の充実と継続可能な給食運営～
  - 6 事務局からの連絡事項  
次回の会議開催について ～日程、資料請求等～
  - 7 閉 会

### ◆議事

【事務局】 会議録の確認

【事務局】 資料の確認

1. 学校給食実施状況
2. 佐世保市の学校給食調理場一覧表
3. 検討スケジュール

【会 長】 今回から諮問の2点目「佐世保市全体における学校の給食のあり方」の検討に入る。  
まず、佐世保市の学校給食実施の現状と課題についての学習会というスケジュールで進めたい。

【事務局】 資料の説明

資料1. 全国及び佐世保市の実施状況、学校給食実施状況調査結果の概要(文部科学省公開資料)に基づき、全国の学校給食の実施率、調理方式別安全給食実施状況、学校給食関係職員の配置状況、学校給食における外部委託の状況等について説明

資料2. 佐世保市学校給食調理場一覧表に基づき施設設備の状況等について説明

実施コストは、平成18年10億8,000万円である。今後、施設整備、コスト、献立、アレルギー

一対策、給食費等々、学校給食の充実と継続可能な給食運営についてどう考えていくかが課題と考えている。

【委員】 資料によると小学校もかなり古い。中学校と小学校の給食調理場もあわせて考えないといけないのではないかと思うがどうなのか。

【事務局】 現在、ウエット方式でもドライ運用しているが、構造的にドライ方式に移行していく必要がある。また、建てかえる時期は来ていると考えている。

【委員】 この委員会でも給食の方式では自校方式が一番いいという結論が出ていたが、小学校の立場から言うと、自校方式のメリット、例えば、子供たちが自分たちの給食をつくる人に、「いただきます」、「ごちそうさまでした」などあいさつをして、ときには調理士の方と学校内で話をすること、食にかかわっている人たちへの感謝の気持ちや親近感など教育的意義を感じている。市教委でも、コミュニケーション能力の向上ということで力を入れているが、人と人が、かかわる場をなくしてはいけないのではないか、効率化という視点のみで教育を考えるのは、少し違うのではないかという考えである。将来的に見ると、逆に大変な損失をしていくのではないか。小学校は、自校方式を続けるということを検討していただきたい。

【委員】 小学校は中学生と違うので、食育的な意義からも単独校方式をぜひ残していただきたい。

資料によると、センター方式と同様の親子方式が4校と増えているが、今どういう状況にあるのか、どういう声が上がっているのか事務局で把握されているか。

【事務局】 当初、校長先生から、給食の量が少ないという話があった。その後、種々変更し、今は大丈夫だということは聞いている。小学校でアンケートを実施するという話もあったが、結果はまだ把握していない。

【委員】 衛生的でより安全な方法としてはドライ方式がいい。ウエット方式で古い施設があるが、ドライ運用、直営という中で、今のところ特に問題や事故なくやっている。しかし、本当はドライ方式に移らなければいけないというような図式が見える。

ドライ方式の面積とウエット方式の面積を子供たちの数と比べてみると、ドライ方式では倍ぐらいの施設になるような感じがする。学校に自校でドライ方式をするだけの施設があるのか。中学校のときにも話があったが、現実問題としてほとんどないので、ないものをどうするかと言われてもどうしようもないという気がする。

理想としては、自校方式でドライ方式がいいに決まっているということだが、学校の現状として食育の観点から、調理をする人たちと子供たちとの交流がきちんとなされていて、そういう学習効果があるという効果的な運用がされている実態は本当にあるのか。

実態がよくわからないので、考えられないというのが意見である。実態はどうなのか。

【事務局】 食育については各学校でカリキュラムを持っているので、どのような場面に学校調理師と児童との交流があるのかを、早急に取り寄せて次回の資料として出したい。

【委員】 継続可能な給食運営ということからいうと、効率化の視点も避けては通れないというのが事実だろうと思う。また、もし、目の前で見られないというデメリットがあったとしても、センター方式で、それをカバーする工夫というのは、あり得るのではないか。やはり工夫していかなければ、いずれ地方財政がより厳しくなっていく中で、ほんとうに継続可能なのかということをしっかり考えていくべきではないか。

センター方式がよいということ、効率化だけで言っているのではないかととられているかもしれないが、この委員会で、中学校を検討する中で、衛生管理などいろいろな面でメリットがあるというふうの一つの結論を出したと思っているので、その点は疑問に思う。センターで

やるとすれば、そういうデメリットを減らす工夫でカバーできるのではないかと思っている。

実際にメリットについて、何らかの検証ができればベストだろうが、多分定量的には出てこないと思う。

【委員】 自校だからそういうことが可能というのではなくて、センターでも子どもたちのために働いてくださっている人がいる、という気持ちが大事ではないか。4月から親子方式になった小学校の保護者も、よりよいセンターをつくるためにということで、協力できたのではないかと思っている。ただ、親子給食をしていくのであれば、親となる学校調理場のドライ方式化も検討していただければと思う。

よりよいセンターをつくるなら、皆さんの考えをセンターに一貫して、気持ちというものはまた違う面で植えていけるのではないかと思う。

【委員】 今日は、勉強会ということだが、実際に給食の現場で働いている方や保護者など教育現場に実際に携わっている方々の声などが上がってこない、何を判断しろ、何を勉強すると言われてもちょっと違うのかなという気がする。コストについても、高いのか安いのかという判断材料もない。これでは意見の出しようがないという気がする。

【会長】 例えばコストのはっきりわかるものが要ということだが。

【事務局】 中学校に出したような形でのコスト、現状のままでの実施とセンター方式に変えたらという資料は、次回用意しようと思っている。

【会長】 佐世保市の場合は、子供の就学人数の推移については、どうなのか。

【事務局】 第4回の資料で小学校、中学校と出している。

【会長】 小学校は、ある程度数が減るという方向ではなく、このままの数はあるという認識でよいのか。

【事務局】 教育環境上の問題から言うと、市内の学校のうち、統合したほうがいだろうという学校はあるが、具体的にはまだ考えていない。逆に分離ということもあり得るかと思う。

【会長】 ほかの課題についても、ご意見があればお願いしたい。

【委員】 佐世保市の未納の状況の資料を提出していただきたい。また、現状で、人件費が一人平均幾らなのか、何人いるのか。センターにした場合、人件費は一人幾らで何人必要なのかを示して欲しい。効率化の問題などの話があったが、要するにお金を節約する方向に向かうのか、あるいは、触れ合いや心の問題といったものをより重視するのか。それはバランスの問題だと思う。

【事務局】 第1回目に、未納に関する資料は添付しているが、新たに平成19年度を入れた資料を作成する。人件費についても作成してみたい。

【委員】 家庭に配布されている献立表で、献立内容は同じで、「家庭でとってほしい食品」という項目があるが、学校によって違うものがある。ある学校は野菜、ある学校は海草と書いてある。小学校のブロックごとに献立について話し合いをしていると思うが、統一されていないのはなぜなのか。

【事務局】 市内に栄養教諭、栄養職員が19名いる。それぞれ担当校があり、アレルギーの相談や献立表の配付、配膳表のことなどやっている。献立表の書き方もそれぞれの個性が出ていると思う。

【会長】 大体一人何校ぐらい担当しているのか。

【事務局】 多い方で3校ぐらい、1校というところもある。

【委員】 センター方式になった場合に、栄養士の先生方19人がそのまま佐世保市にいることになるのか。今後中学校でも食育をやっていく場合に、人数が減るのはちょっと困ると思うが、

どうなるのか。

【事務局】 できれば全校に各一人配置が一番理想的と思う。センターになったときにどうかというご質問だが、このことに関しては県が基準を持っているので、長崎県内の市町の教育委員会で作っている連合会から県への要請として、食育をするために栄養教諭をつくってくれ、増やしてくれという要望はしている。

【委員】 市内の3中学校で9月ぐらいから親子方式を始めるということで、ほんとうにやれるのかという疑問がある。中学校の先生に給食指導であるとか、食育という意識があるのか。

また、日課の変更、保護者への説明や集金方法など事務処理、そういったものが校長会に示されて、研修会などが持たれているのか。

【副会長】 学校の教師たちは、これ以上また忙しくなるのかと、負担感や危機感が非常に強い。そういうこともあり、実際にまだ具体的な議論やどうするかというところまでは、今の時点では行けない。もう一つは、教師による意識の温度差がかなりある。まだ十分な情報、タイムスケジュール、細かなところが出ていない状況では、学校としても具体的な議論をしにくい。日課の変更は、30分ぐらい早くなるのかなということやってもらっているが。制度ができたけれどもその理念がほんとうに花開くかどうかというのは、やはり人次第だと思う。

もう一つは、未納問題。いずれにしても、まだみんな当事者意識が薄い。親も教師もそうだろうし、そこをどう気持ちを上げていくのかということが喫緊の課題かと思う。

また、食育ということで、この給食の課題に対する当事者である子供の参加の道筋をどう開くのかということ、改めて申し上げたい。そういう道筋をどこかできちんと設定してほしい。

【委員】 例えば研修会の予定があるのか。あるいは保護者への説明会やリーフレットを配布するなど具体的な計画はあるのか。

【事務局】 9月から実施というのは4月の校長会で言っている。また、6月議会に予算を計上するということがあり、PTA会長にはそういう予算を上げるからということで、お話をしている。また、学校に対しては、議会の議決を受け、本格的に保護者へ説明できるように学校のカリキュラムの問題や、学校内においてどういう事務体制をとるのかについて考えてほしいと伝えている。今後、予算が決まったら、細かな説明をしなければいけないと思っている。

【事務局】 学校とは一部分しか対応ができていないので、これから9月に向けてお願いをしていきたいと思っている。

ただ、市内の中学校で、既に6校、実際に給食をやっている、また、多くの先生が他の市町で給食を経験しておられるというふうに考えている。最初にこの問題が出たときに、ある校長から「未納はどうするのか」と言われた。このことについても今検討しているので、払拭すべきものは払拭したいと考えている。

一番の問題はやはり日課だと思う。今、給食を実施している中学校は、ほとんど8時15分始まりというような状況なので、15分早め、下校時間が決まっているので、例えばクラブ活動の時間も短縮してもらいたいと思っている。このことについても、次の研修会あたりで話をさせてもらえればと思っている。

【副会長】 次回の、7月の定例校長会は、実際に給食をやっている小佐々中で開き、勉強していこうという話になっている。

【委員】 9月になったときに、日課や校務分掌の見直しを行ったり、事務的なものが入ってくる。お金を扱うこともあるし、書類的なものもある。やはり子供と向き合いたいという時間を、事務的なものにかかなり使っているという現状があるので、そこはご理解いただきたいし、今から準備して、どれぐらい先生たちが理解して、一斉に指導ができるのかと心配であ

る。

【会 長】 検討委員会としては、少しでも早い食育の実現を目指した給食実施ということに同意している。ということは、これから先の運用は、佐世保市が話し合いなどを詰めてやっていただけるものと思っている。

食べている子供に、ばたばたしたような感じで最初の給食があると、子供たちが嫌になってしまうので、準備のステップは事務局サイドで十分検討し、きちんとつくり実施していただきたい。

【事務局】 夏季休業が40日間ある。その中で準備をやっていただく。

実は、大きい学校では今これをいきなりやれと言われてもなかなか難しい。できるだけ投資してもそれが残るような形で考えたので、3校しかできなかったということである。

県北あたりで中学校給食をやっていないのは、佐世保市だけなので、給食の経験をされている先生方が半数以上いらっしゃるだろうという状況である。子どもとしては、実は万全を期して、もちろん設備についてもそうだが、給食をつくるための人的なもの、学校の日程とか校務分掌の問題などを見ながらいかなければならないと思っているので、学校と協力し合って実施していきたい。

【委 員】 現場で食育指導されるということであれば、始められた以降、どういった工夫をされているのかをぜひ見に行きたいと思う。ふらっと行って、見せてくださいという感じで学校を歩いて回りたいというのが率直なところである。全体にそれを浸透させて、よりよい食育ということにかかわっていければと思う。

いつ行くかわからないということをおきたいと思ったので、そこら辺を調整していただければと思う。

【事務局】 はい。

【会 長】 実は、今日は、小学校給食の今後のありよう、スケジュール等をどうするかということを探りたかったのだが、目の前のことの話になった。

中学校が終わったから、小学校ではなくて、この小中というのは非常にいろいろなことで連動性がある。資料をこの次までにきちんとそろえていただいた上で、スケジュール表の順番で進めてよいか。

中学校のときに十分検討し、また初めからということになるが、あわせての協議ということでもよろしいか。ご意見をいただきたい。

【委 員】 学校におけるカリキュラムを資料として提出して欲しい。世知原の試食のさい、子供たちが食べる時間がものすごく短く感じたので、今後もそれで同じになるのかどうかという、疑問を感じた。

【事務局】 市内だけではなく、市外の分もサンプリングし提出する。

【委 員】 現在の給食についての充実、持続可能な運営のあり方ということになると、すでに、実施中のことなので、各学校で今の給食に対して、どこが問題なのか、どこがいいところなのか、どうあってほしいのか、アンケートをとって見たらどうだろうか。現場を知るといのがどうしても必要になってくるだろうと思う。現場を見に行くということもあり得るのかもしれない。

【会 長】 学校給食の問題というのは、資料に書いてあるように、衛生管理、献立、アレルギー対策、残渣、コスト、地産地消、そういうことはあるとは思いますが。

【委 員】 施設設備は老朽化してきている。これを順次ドライ化していくにはどれぐらいのコストがかかって、将来的に伸び率はどれぐらいあって、それをセンター方式に暫時かえていく

ならどれぐらいになるのかという、ある程度の目安がつけられるような、判断できるような資料を提示していただければと思う。

【事務局】 中学校で出したようなものでよいか。

【委員】 はい。

【会長】 中学校の検討のときに、かなりの資料の提出があつているので、それをもう1度見ながら、そして新しい資料を加えていきながら、全体のありようを考えていきたいということでもよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【会長】 人の教育とか食育は、なかなか計量できないのだが、提出できる資料はあるか。

【事務局】 教育効果として定量的に出すのは非常に難しいが、小学校段階では、1年生はこう、2年生がこうというものは、各学校の食育計画で大体わかると思うので集めてお見せするようなことを考えてみる。

【会長】 では、その計画書による説明ということで、進めていってよいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【会長】 他になければ、以上で議事を終了させていただく。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【会長】 以上で議事を終了する。

◆次回の検討委員会の日程確認

第10回 7月11日金曜日開催

第11回 8月4日月曜日開催

【事務局】 皆様、大変長時間にわたりありがとうございました。

◆閉会

— 了 —